

北社会ニュース オ10号

2005-3-16

発行・鈴木壮夫

3月3日、東北電力本社を訪問、本日の講師高橋宏明氏に面談致しました。内容は本日のご講演を拝聴して下さい。最上階の応接間から仙台市内を一望しました。花京院・白百合学園の跡地に聳えるビルからは大年寺山も指呼の間で、北側は懐かしい上杉山小学区、意外と「狭く小さい」と感じました。山脈から海岸まで40-50km位でしょうか、私にとっては「山あり海あり」、心が和みました。

来月以降の予定

4月20日(水) -青山史朗氏のご推薦-

講師：高橋純三氏(高17回) (株)インテリジェント・コズメ研究機構

科学技術コーディネーター(工学博士)

「文部科学省知的グラスター創成事業 仙台地域の状況」

5月18日(水)

講師：齋藤敏一氏(高15回) (株)ルネサンス 社長

同期生の不慮の死

明後日64才になります。26才の時、オヤジが癌で死にましたし年齢相応の死に目は経験しております。しかし、今回の同期生の死には「人の命のはかなさ」を初めて骨の髄まで思い知らされました。柔道部の高11回同期会「きぬた会」が今年も3月2日、松島大観荘で開催されました。大阪・名古屋からも駆け付け、在校当時の部員の内、2人のみ欠席で15人が結集するという堅い結束でした。「準会員」の私も含め16名で深夜1時

頃まで食って・吞んで・唄いました。私は大柄な故人の隣の蒲団に潜り込んで熟睡しました。いびきがさぞうるさかっただろうと同情しております。翌日、東北電力を訪問し1階のロビーでなにげなく外を見ると故人の仙台のアパート「カーサ白百合」が眼に入りました。ああ、ここが单身生活の場所かと偶然に驚きました。翌週8日-10日、今度は妻と前週とほぼ同じルートを旅して9日東北電力を訪れた際、妻も面識ある故人のアパートを教えました。翌10日、宮城県美術館の帰途二高の前を通りかかった時、急に柔道場を見たくまりました。神聖な「男の鍛練場」に「女」を入れるためらいもありましたが事務室に頼み案内いただきました。三船・愛知・青山大先輩の名札を妻が拝見、次いで11回の名札を一枚ずつ妻と声を出して読みました。森閑とした道場に私達の声が響きました。

「白幡興成」と読んだ時、既に故人となっていたこと知る由もありませんでした。訃報は11日早朝、そばを打っている時

塩釜から電話あり知りました。定時通話が途絶え心配した奥さんが福島から新幹線で仙台のアパートを訪れ仰向けに倒れているご主人を見つけ市立病院に搬送したが「不整脈からきた脳梗塞」で3月8日夕方息を引き取ったそうです。左上の「ピンピン」は同期情報紙の表紙です。昨年、故人が数回二高に行き満開の桜を撮影してもらいました。合掌。

ピンピン
オ4号

白幡興成 撮影

2004.春

「一ノ蔵」櫻井武寛社長（高14回）のお便りから抜粋

昨年11月、「一ノ蔵を楽しむ会」でのスナップ写真を郵送したら、お礼状が届きその中に次の文章がありました。皆さんにも知っていただきたいと思い転載します。

（酒造りと米）

ここ最近、酒の製造段階で意外な発見がありました。それは無農薬や減農薬・減化学肥料の米で仕込んだ際に、蒸米・麴の香りや感触、酒母や麹の味・香り・状貌に、慣行栽培（農薬・化学肥料を使った一般の栽培方法）の米と明らかに違う、非常に良い結果が出ているのです。このことは会社設立以来「良い酒を造ること」を基本にしてきた当社にとって、ある意味でショックでした。それは、原料に関する知識・経験・ノウハウが不足していたことを認識したからです。今までは精米歩合の低い高精白での酒造りは、米の栽培方法の影響をそれほど受けないと思われていましたので、業界や醸造研究所でも化学肥料や農薬がどのように酒造りに影響しているかの資料は、ほとんどありません。しかし、その違いは、当社の製造部の社員が日々の作業で一番実感しております。減農薬・減化学肥料の米作りはまだ始まったばかりで、いろいろな問題を抱えております。今年の契約栽培は、松山町で34軒の農家にお願ひし、60KGで約五千俵の収穫をあげることができました。一中略。米作りもいろいろ心配な点があり、まだノウハウが足りません。社員皆で作っている無農薬・無化学肥料の実験田でも、いろいろな問題が発見されております。ただ、この田んぼではトンボが乱舞し、ツバメがこの田んぼの上のみ飛び交うという事実も発見できました。――以上――

「一ノ蔵」では松山町にお願ひした農業特区で酒米を自分達で栽培し、ほかのいろいろな農産物を作って、酒粕などを用いて加工品を開発・生産することも可能になったとの記載もありました。新しい農業の需要を開発して、ぜひ地域に貢献を果たしたいと考えてもおるようです。与えられた米ではなく自分達が作った米で酒造りをする。更に、酒造りの技術を応用した米からの医薬品や化粧品などの共同開発も手がけておるそうです。一度松山町と一ノ蔵を訪ねてみたくなりました。

「学都・仙台」続報―河北新報3月10日みやぎ県内版より―

今年1月の大学入試センター試験を仙台市内の大手予備校が独自集計した結果、47都道府県中宮城は37位。昨年3月県内の高校を卒業した生徒のうち、「大学等現役進学率」は36.1%と全国平均45.3%を大きく下回り40位。市教委は教師向けに分かりやすい授業のコツなどを伝授する「授業改善事例集」を初めて作った。基礎学力の底上げが狙いだ。本年度も近く第二集を市立の小中学校全186校に配布し、指導を後方支援する。「学都」が看板倒れにならないよう、学校現場では粘り強い取り組みが求められている。県全体の学力アップのけん引役を仙台市内の学校に求めている。